

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成29年度第3回)

日 時：平成29年11月24日（金）午前10時25分～午後0時5分
場 所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

○司会（障がい福祉課 竹ノ内）

定刻までには若干時間が早いようですけども、皆さん揃われましたので、これより会議のほうを始めさせてもらおうと思いますので、皆さん、よろしいでしょうか。そうしましたら、ただ今から、「平成29年度第3回手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議」を開催いたします。本日はお忙しいところ、本会議にご出席くださりありがとうございます。私は、本日の進行を務めます、鳥取県障がい福祉課の竹ノ内と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、本会議の委員長であります、鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長の宮本から、皆様にごあいさつを申しあげます。

2 委員長あいさつ

○宮本委員長（ささえあい福祉局長）

皆様、本日も大変お忙しいところご出席いただきまして、また遠くからもご出席いただきまして、ありがとうございます。今年の手話パフォーマンス甲子園も無事終了いたしました。無事というのも大過なくという意味でございまして、これもここにご出席の委員の皆様のおかげだと、ほんとうに心より感謝申しあげます。ありがとうございます。全体をとおしての話を私がするのは僭越なんですけれど、初めて執行者側として参加させていただいた感想をこの際述べさせていただくならば、まず観客のほうなんですけど、今年は皇室のお成りがなかったもので、大幅な観客数の減になるんじゃないかと心配していたところもあったんですけど、蓋を開けてみるとそうでもなくて、私も後ろの入り口のほうに立っていたんですけど、時間の経過とともに、次から次にお客さんがやってこられていて、このイベントの人気の根強さを感じました。それから、出場の高校生のほうなんですけど、これは予選も本選もそうでしたが、熱意を感じました。これはいい意味で今までどおりだったかなあとと思います。それと一度だけだったかもしれませんが、聴覚障がい者と健常者とのチームも去年に引き続き出てくれたというのも大きな要素だったかなあとと思います。こういった交流の要素というものも、この大会の主願でありますから、徐々にそういった面でも進捗が図られているのかなあと思いました。それから最後にマスコミのことなんですけども、県内のマスコミさんだけではなくて、鳥取県外に拠点を置きますマスコミさん複数きてくれてまして、当然そういうところは、地元で放送してくれるわけですし、その意味からも手話を普及するという本大会の趣旨も確実

に進捗しているのかなあとも感じました。そういうことで、主催者として欲目だったかもしれませんが、そういうものも思っています。ただ、個々の運営のやり方に関しては、たぶんに改善の余地はあるんだろうと素直に思います。ですので、この委員会、時間も限りがありますけれども、ぜひ忌憚のないご意見を聞かせていただいて、次回からの改善につなげていきたいと思えます。皆さん、どうぞよろしくご意見のほどをお願いいたします。

○司会（障がい福祉課 竹ノ内）

次に、委員の皆様のご紹介ですが、本来でしたら、本日ご出席いただいております皆様全員をご紹介させていただくところですが、時間の都合もありますので、誠に恐縮ですが、お手元の出席者名簿をもって、ご紹介に代えさせていただきます。

なお、本日は県外より、筑波技術大学の教授でいらっしゃいます大杉委員、全日本ろうあ連盟で青年局長を務めておられます廣田委員にお越しいただきました。遠方よりお越しくださりありがとうございます。また、大会運営のパートナーであるM&M. c o（エムアンドエムドットコー）さんに、今回もオブザーバー参加していただいております。今日はよろしくお願ひします。

これから議事に進みたいと思えますが、その前に発言される際のお願ひをさせていただきます。ご発言いただく際には、まず手を挙げていただき、お名前を述べていただいた後、ゆっくりお話しくださいますようお願ひいたします。それでは、これより、議事に入らせていただきます。これから先は、実行委員会設置運営要綱に基づきまして、宮本委員長に議長をお願ひします。それでは、宮本委員長、議事の進行をお願ひします。

3 報告事項

○宮本委員長

それでは、これより議事に入らせていただきます。まずは、報告事項について説明させていただきます。お手元の「資料1」をご覧ください。「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催」について、事務局から説明をお願ひします。

(1) 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催について（資料1）

○明場（実行委員会事務局長）

資料1のほうをご覧くださいと思えます。「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催」についてということでございます。大会についての概要等、簡単にまとめてございます。皆さん、10月1日、とりぎん文化会館のほうで開催いたしまして、皆さんにもご参加いただいたということでございますので、あらためて説明までは省略させていただきますと思えますが、来場者数（1の6）につきまして、約1800人ということございまして、第3回るとき、倉吉で行ったときは2000人だったということからしますと、やや少なかったというところでございます。出場チームにつきましては、参加予選申し込みがあったのが54チーム、このうちの20チームが本大会に出場したというところでございます。

そのほか、本大会に合わせて、同時にいろいろと開催しました。「あいサポート・マルシェ」とか、「手話カフェ」等、手話カフェはとくに新しい試みとしてやったところでございます。

資料をめくっていただきまして、皆さんご承知のとおり、優勝校は奈良県立ろう学校ということでございまして、今年につきましては、賞を増やしたということで、そこに記載のとおり的高校が表彰対象となったというところでございます。

3の交流会につきましては、前日の9月30日にホテルニューオータニのほうで開催させていただいたというところでございます。全部でだいたい250人ぐらいが集まったというところでございます。

そして、5、その他としまして、大会の模様を公式動画チャンネル（YouTube）で、ライブ中継を行ったり、ステージ中央に大型LEDモニターを設置したりということで、いろいろな取組を行なったというところでございます。資料1については、簡単ではございますが、そういったところでございます。

続きまして、「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査結果一覧」ということで、これは参考までに付けております。一応非公開、取扱注意ということにしておりますので、注意してご覧になっていただけたらと思います。

続きまして、第4回「全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査員表」というのも、横長のものを付けております。これにつきましても、参考までに付けているものでございます。これも非公開、取扱注意ということでございますので、よろしくお願ひいたします。

続きまして「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園のアンケート結果」というのを付けておりますこのアンケートですけれども、来場者から取ったもの、それから引率者（高校の先生）から取ったもの、それから出場生徒から取ったものというふうに、それぞれ3パターンで作っております。詳細につきましては、見ていただければというところでございます。ざっとしたところと言いますと、まずめくっていただきまして、来場者の部のところですね。今回見て、どうだったかという感想のところでございます。「とても良かった」「良かった」ということで、9割ぐらいの方が良かったということで評価をいただいたというようなところでございます。

この大会を何で知ったかということについては、チラシ・ポスターが多かったというところでございます。

そして10番ですね。「来年も大会を見にいきたいと思いませんか」ということで、「ぜひ、いきたい」「行って、いいと思う」ということを合せて75%。ぐらいということで、割と関心を持っていただけているのかなというところは、伺えるところでございます。

めくっていただきまして、4頁のところでございます。来場者からのいただいた意見ですね。良かった点については記載のとおりですけれども、改善点ということで、今後に向けて我々としても考えていかなければいけないところがあるのかなあというふうに見たところでございます。「もっとたくさんのお客さんがあってしかるべき」というところもありますし、「税金を使い過ぎじゃないか」というようなご意見もございます。それから時間的なもので「長いんじゃないか」というところもあつたりしています。というように感じて、こういったいただきました意見を踏まえてまた次年度以降に向けて考えていきたいというふうに考えております。

続きまして引率者につきまして、こちらはこちらでご意見等いただいております。時間が長いとかという意見もいただいておりますし、参加するに当たっての手続き的な部分に対しての「もう少し早めてほしい」といった意見もいただいております。あとは生徒同士の交流という部分で、「もうちょっと工夫があってもいいのではないか」というようなこともいただいているというようなところでございます。簡単ではございますが、アンケート結果については、以上でございます。資料1については、以上でございます。

○宮本委員長

ただ今の説明に対し、ご質問やご意見はございませんでしょうか。いろいろ意見が出ているんですけど、中心となるのはこの会に出席しておられる委員さんからの改善点について本日議論していただいて、そのほかの方からのアンケート結果というのは、参考にしながら今後に生かすということであっていいですね。よろしければ次に進行させていただきます。

○宮本委員長

続きまして、お手元の「資料2」をご覧ください。「第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園における取材及びテレビ等の放送実績」について、事務局から説明をお願いします。

(2) 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園における取材及びテレビ等の放送実績（資料2）

○明場（実行委員会事務局長）

続きまして資料2のほうをご覧くださいと思います。冒頭、委員長のほうからも話がありましたけれども、この手話パフォーマンス甲子園に関するマスコミ関係のほうからも取材をいただいておりますので、その辺りの情報をまとめております。

NHKのEテレで「聾を生きる難聴を生きる」ということで、大泉桜高等学校・立川ろう学校の連合チーム、それから、鳥取城北高等学校の2チームのドキュメントとして放映をいただいているということでございます。

それから、北海道文化放送（UHB）についても、石狩翔陽高等学校の取材ということで来ていただきました。

それから、目で聴くテレビということで、大会を紹介するダイジェスト放送を実施していただいたところでございます。

裏側のほうにいきまして（2）のところですけども、大会のダイジェスト番組ということで、これは地元の日本海テレビのほうで放映がなされたところでございます。

それ以外にも、7月にNHK長崎放送局において、本選のほうには出られなかったんですけども、同県の平戸高等学校が予選審査会にあたって練習に臨む様子を紹介する放送が行われたということでございます。

このように、全国各地からの放送は、マスコミで取り上げていただいたというところでございます。以上です。

○宮本委員長

ただ今の説明に対し、ご質問やご意見はございませんでしょうか。それでは議事を進めます。

4 協議事項

○宮本委員長

続きまして、協議事項に移ります。今日のメインが、この協議事項でありまして、資料の3ということになります。これ6頁まであるんですけど、初めに、ざっと事務局のほうから説明をいたします。委員の皆さんは、それでひとまずいいですか？6頁まで説明して、個々の点について委員のほうからご意見を賜るという方式にいたします。では、事務局から説明いたします。

(1) 第4回大会に係る企画推進会議委員の皆様のご意見・御感想（資料3）

○明場（実行委員会事務局長）

では、資料3の説明をさせていただきます。本日お集まりの委員さんの皆様からのご意見ということで、提示したものでございます。

まず、良かった点につきましては、大会全般につきましては、お成りがなかったというのが、今回一つの特徴だったんですけども、この大会そのものの雰囲気とか、基本的な流れを把握することができたということで、てお成りがない場合のやり方を改めて考えるきっかけになったということがあろうかと思えます。

全部読むということまではしませんが、主なものを拾って説明したいと思えます。情報保障の点につきましては、今年、情報保障コーディネーターチームということで取り組んだところなんですけども、やはり去年よりは改善されてきましたというようなご意見をいただいております。

会場につきましては、会場が広くて、とりぎん文化会館でしたけれども、会場に余裕があったというようなご意見をいただいております。

演技につきましては、演技時間を知らせるランプが好評だったとか、レベルが上がっているとか、そういった意見をいただいております。

出場チームにつきましては、会場内外で、出場校同士の交流場面が見られたということは良かったんじゃないか、というような意見もいただいております。

めくっていただきまして、司会、ゲストの関係では、司会の三城さんが手話ができるということでございまして、それが良かった。手話のできる司会者というのは、やはり大事だというようなご意見をいただいております。

出場チームでは、出場校同士の交流があった。

表彰については、賞を新たに設けたということもございまして、賞が各校に分散して、良かったのではないかという意見もいただいております。

それから、ボランティア、高校生ボランティアの関係で、多くの方に関わっていただけたということがございます。

それから、手話スタッフにつきましても、余裕を持った人員配置ができたということで、休む間もなくという厳しい状況はなかったということでございます。説明会も10

日前に設けたということが、これがやはりそれにつながっているのかなというところがございます。

公式グッズにつきましては、公式グッズ販売は良かったけれども、もうちょっと種類とか、数があれば良かったという意見もいただいています。

交流会、非常に温かみのある司会者の進行など、大変温かみのある会になり、また、マグロの解体ショーも良かったというご意見をいただいているところがございます。

続きまして、改善すべき点、工夫が必要だった点ということで、いろいろとご意見いただいております。とくに、この辺りが議論になろうかと思えます。今回、進め方としては、皆さんに、やはり情報共有をしていただくということ、大きな目的としております。今日の中で、すべての最終方針を決めるということまでは考えてないんですけども、全般的にできることと、できないことを含めて、これから検討させていただいて、次回へつないでいきたいと考えております。記載している中で、文章をまとめる過程で意味がちょっと通じにくくなってしまったりする点とか、あるいは追加の意見等ございましたら、また追って説明なりしていただけたらというふうに思います。それからこの場に限らず、今後、個別にいただいた意見を反映させるためのご相談ということもあろうかとも思いますので、またそうになりましたらよろしく申し上げます。という大前提の元に、皆さんからの意見をちょっと紹介させていただきます。

まず、来場者の話ですけれども、会場前の出入りの観客の整理の仕方、また手話通訳、リードの仕方はどうだったのかという話、それから観客に聞こえる人、聞こえない人、聞こえにくい人がいることを頭に入れて運営しているというようなこと。それから3点目としましては、もう少し見に来ていただける方を増やす工夫をしたらどうかというようなご意見をいただいております。これらにつきましては、今後の検討ではございますが、マニュアルなどに反映するなど検討していきたいと思っております。

情報保障についてでございます。運用上のトラブルにたいするご指摘、それから実際手話通訳者の立ち位置とかで見えにくい場所があったという話ですね。あるいは交流会と本大会の通訳者を別の人にして事前準備に集中できる環境にしたらどうかというようなこと。そういうようなご意見をいただいております。トラブル的なものにつきましては、しっかりと今後そういったことのないよう努めたいと思っております。いただいたアイデア部分につきましては検討していきたいと考えております。

今年度初めて資料を前もって椅子に置いたということもございますが、これはアンケートの中で皆さんからもあった意見なんですけど、席取りのために置いているというふうに受け取られたようですので、受け付けて配布したほうがよいということでございます。来年度はそういう方向で調整していきたいと思っております。また、ステージ上にスタッフがいるのが気になったというご意見があり、これについてもリハーサル的なことがあるのかなあという反省すべき点があろうかと思っております。これについても今後検討していきたいと思っております。

それから催しのところでは、これはどちらかというとアイディア的なところで、ワークショップの種類を増やすとか、あるいはスタバ、スナバさんに協賛してもらって新コーナーを検討するとか、もっと実業高校生からの販売コーナー出してもらったら良かったとかいうようなアイディアをいただいております。いただきましたアイディアにつきましてはできるだけ考えていきたいと思っております。

めくっていただきまして4頁、受け付けにつきましては、手話高校生を受け付けが分からなかったとか、分かりにくかったところがあるようでございます。これにつきましては案内表示等を考えていきたいと思っております。それから演技については、スライド、音楽、照明の切り出しは教員ではなく生徒が担当すべきという意見。それから聞こえない生徒に声を付ける場合、声を担当するのはどの範囲にすべきか、これを大人がする場合はそれを審査員に予め伝えるべきだというようなご意見をいただいております。こういった問題につきましては、高校生の役割を全部ということでは逆になかなかハードルが要るということにつながるという部分もあろうかと思っておりますが、この辺も含めていろいろと検討していきたいと考えております。

それから、運営等につきましては期日の決定が遅れたということが反省点ということで、本来であれば今年度の終了時に来年度の日程が分かるぐらいの告知が必要だというようなご意見をいただいております。それから、手話学習とか交流をしている中学生、4番目のところですけども、中心に招待するなどして高校生になったときに「自分も出たい」というようなかたちで、早くから関心を持ってもらうようなことを考えたらどうかというようなご意見をいただいております。日程の点につきましてはなかなか、これが県だけでやる事業であれば可能な面もあろうかと思っておりますけれども、特別協力団体とか、特別協賛団体さん、それから来賓の方々等の調整が時間がかかったりするものですから簡単にいかないというところはあるんですけども、どういったかたちでやるのがいいのかということを常に頭に置いて進めていきたいと思っております。それから中学生の招待の話につきましては教育委員会とも連携を図りながら考えていきたいと思っております。

それから、司会・ゲスト・進行のところでございます。今回、審査員が急遽こられないという事態が生じたんですけども、補充する方針が良いと考えるので、誰かをリストアップしておくべきだと、代替候補者を用意したほうが良いというようなご意見をいただいております。今回たまたま鳥取にいらしてた庄崎さんの知り合いの中にそういった造形の深い方がおられたからうまくいったという面はあるんですけども、こういったことが急遽起きたときに、たとえば来賓の中にそういった審査ができるような候補者の方をお願いしておくとか、なんらかのかたちで対応を考えてみたいと思っております。

それから、ボランティアの関係でご意見をいただいております。閉会式の時の話とか、リハーサルで業者が舞台の上で目立つ。高校生を前面に出せば業者スタッフが舞台の上で目立つことも少なくなるのではないかなというようなこととか、あと高校生ボランティアが働きやすい体制を作るとか、もっと増やすとか、そういった辺りのご意見をいただいております。やはり、高校生の大会ということもございまして、高校生ボランティアのほうの数を増やすとか、より働きを目立つようにするとか、そういったようなかたちで考えていけたらなあと思っております。それから、手話スタッフにつきましては働きやすい体制の検討というご意見もいただいております。審査につきましては、パフォーマンスだけではなくて、パフォーマンス後のインタビューの手話表現も対象にしたらどうかというようなご意見もいただいております。ここで新たなプランとなりかねないところもありまして、この辺も含めつつ皆さんの幅広いご意見をいただきながら考えていけたらなあと思っております。今回、リハーサルの時間がちょっと十分ではなかったというご意見がけっこうあったりするものですから、この辺りも含めて今後考えていけたらと。

それから、公式グッズについては、大会グッズに高校名が入っていないものも販売してほしかったというご意見をいただいております。それから、広報については、PRチラシの中で載っていないチームがあったというような話だとか、イベントの旗が鳥取駅と若桜街道に立っていたんだけれども、もう少し増やしたらどうかというようなご意見もいただいております。それから交流会につきましては、バイキングの進行方向の矢印（→）の先が細すぎてわかりにくかったとか、マグロの解体ショーは、スクリーンに映った方が良かったとか。それから、やや時間が長かったのではないかとご意見もいただいております。それから料理のほうももっとシンプルで良かったのではないかとかいうところがございます。映像出しは、カメラの位置も含めて改善する必要があるということもございます。そういったご意見も含めながら、まあ時間が長かった点については、ちょっと議論があるかもしれませんが、いただいたご意見を踏まえながら考えていきたいと思っております。

めくっていただきまして6頁、その他のご意見としていただいております。大会の質は向上していると感じたというようなことをいただいております。来場者が少なく残念だったということで、日程の話ご意見いただいております。それから、県内一巡したので、今後は、開催期日、会場の固定化を検討したほうが良いのではないかとご意見もいただいております。学校行事はやはり前年度に予定されるということでもありますので、なるべく開催期日の固定化を検討したほうが良いという意見をいただいております。あとは、とりぎん文化会館は空間的には参加者、動員数などを含めると、とりぎん文化会館が最適だというようなアンケートもいただいております。やはり手話の聖地ということで宣伝していく以上、一か所に決めてやったほうが良いというご意見もいただいております。なかなか会場とかの部分につきましては、単独でやっていることでもなく、いろいろ関係団体とかの調整とか来賓とかの調整等もございまして、なかなかそういったご意見どおりにできるかどうかということはまだあるんですけども、ご意見として、とりあえず報告さしていただきたいと思っております。以上でございます。

○宮本委員長

今、ひととおりざっと説明をいたしました。事前の事務局の打ち合わせで、この資料に沿って読み上げるだけじゃなくて、次回以降どうするつもりなのかという事務局案をセットで言うことにしようという打ち合わせはしたんですね。その結果が今の発表でありまして、掘り下げた答えの部分もありましたし、それから検討しますのひとことで済ましちゃったところもあるので、もう少しこの意見に関して、とくに3ページ以降ですね。改善点、工夫の必要な点、そういったところで、こういうつもりで自分は言っているんだけど、その答えとして事務局は今どういうつもりなのかというところを聞いてみたい、もっと更に答えがほしいですとか、この意見そのものが、こういうつもりで言ったんだよというところを今この際したいとか、そういった観点でご意見を賜ればと思います。挙手をしていただければと思います。

○田中委員

大変お疲れ様でした。ありがとうございました。私もたくさんの意見を書かせていただいたんですけども、やっぱり一番大きなところが、最後にも出ました、開催時期というところだなあと思います。高校生の行事ということ考えると、やはり、前々から時

期というのが決まっているということもありますし、学校内のことを考えても試験だっ
たりの期日は、例年だいたい決まっているというのがありますので、毎年毎年、期日が
動くというのは、学校にとっては良くないのではないかなあとと思います。今よりも参加
校を増やしたいということもありますし、そういうことを踏まえた上でも、やはり〇月
の第〇日曜日とかというふうに固定化してしまえば、そこに向けていろいろな学校が計
画的に動くことができるのではないかなあとと思いますので、期日についてはそういうか
たちで開催時期を決めて、公表してということ伝えて、しかもそれを毎年この時期に
するというを固定化するというは、強く進めていきたいなと思っています。同時
に、意見の中にも書かせていただいたんですけど、今回、とりぎん文化会館を使っ
ていて、すごくいい会場だなと思いました。玄関を入ったときに一階のスペースが全部
見渡せて、二階に入るところも見渡せてという、ホールの中に入らなくても、ホール以
外のいろいろなイベントも一体感が持てるような会場なのではないかなあとというふう
に感じました。ですので、手話の聖地という位置付けをするのにはとてもいい場所ではな
いかなあとと思いますので、ぜひその辺を前向きに検討していきたいなあとと思います。

○宮本委員長

同じようなご意見が森原委員や国広委員にあります、なにか思いがあれば。

○森原委員

田中委員も言われましたけれども、やはり、期日は甲子園の高校野球でも、だいたい
決まっていますよね。それに合わせて高校も行事等を入れられると思うので、前もって
決めたほうが学校側もスムーズに行事を立てやすいのではないかなあとと思います。それ
と、会場が変わると色々と問題が発生するので、会場が固定されたことによって、改善も
しやすくなるのではないかなあとと思います。

○国広委員

まとめられるのは大変だったと思います。ありがとうございます。田中委員、森原委
員と同じような意見です。会場固定化、期日についても検討はするとしても、最終的に
は実行委員会だと思います。特別協賛団体・共催団体・来賓の方々と、調整がなかなか
難しいという事務局の話でしたが、「こうします。協力よろしく」というかたちででき
る部分というのがあってはないかと思っています。そういう意味でも、ここで検討できれ
ばいいと思います。

○宮本委員長

ここは、事務局としても、ジレンマをかかえているところ、かつ一番ネックになると
ころだと思います。ここはたぶん事務局として、もう少し掘り下げて説明しておいたほ
うがいいのだろうと思うところはあるんで、言ってもらって。

○明場（実行委員会事務局長）

いただいたご意見ごもつともな部分もありがとうございます。一番ネックとなります話としまし
ては、やはり宮内庁ということで、これまでの大会見ていただいている人は分かると思
うんですけども、皇室のほうから来ていただいているというところもございまして、

なかなか宮内庁とは早く決まらないという点もございまして、ちょっと苦しいところがあるかなというところがございます。そして今後の会場の決め方とか時期の問題につきましては、ここだけの議論ではなくして、もう一つ上の実行委員会の委員のご意見、それからスポンサーである特別協賛（団体）の日本財団さんのご意見等いろいろございます。その辺りも含めて考えていかなければ、我々のほうだけではちょっとできないという部分がございまして、そういったかたちで今後議論を深めていくしかないのかなというふうに思っております。

○宮本委員長

慎重に言葉を選んで。学校では、いついつ運動会をやりますとか、そういうのは地元の調整とか教育委員会の調整だけで済むということでもないし、ということでご理解いただければと思います。私どものほうも、それは重々感じておりまして、できることならば固定化して、こちらのほうの主導で決めるのが一番やりやすい方法ではあるんですけども。はい、それ以外のところへいきましようか。

○大杉委員

今のお話を聞きますと、日程につきましては、いつ決めるのかというのはなかなか大変な状況で、それを分かった上で、参加を目指す各高校生、それだけの問題ではなくて、審査員を確保するという、そういう観点も含めて、こちらサイドもいろいろと課題が出ているわけで、決定が遅くなると少しでも問題を解決するために、問題を少なくするために、たとえば日程について案をいくつか作って、例えば3案あるとするならば、内々にそれがあるとするならば、分かった上で進めることができる。事務局側の調整もスムーズではないかと思えますし、こちらも助かります。そういった工夫をお願いしたいと思えます。

○宮本委員長

おっしゃるとおりだと思います。実は、もう今の段階から宮内庁には、来年度の開催について打診をしているところです。今日のこれからの議事日程の中にも、今後の日程というのがこれから先出てくるんですね、この意見交換のあとで。そこで紹介しようと思っているんですが、実は今から調整にかかっているというところがあります。皆さんの日程調整が最大公約数的に整ったところで、やっていくものだと認識しておりますので、その点ご指摘の点を踏まえて、今後も日程調整をやっていきたいと思えます。その他のご意見どうぞ。

○山根委員

高校生のボランティア等々、高校生の参加の観点で、私からお話をさせていただきました。まず3頁の高校生の販売コーナーでございますけれども、これは今回参加をしました2校（境港総合技術高校、鳥取湖陵高校）については、私が直接、校長に依頼をして参加をしていただきましたけれども、もしもブースを、もっとたくさん出してもいいよということであれば、もう少し増えたのかなあと、2校程度というお話が、（事務局あ）あったように思いますので、その辺、誰を主に考えるのかということで取組をすれば、またたくさん的高校生がやりたいというのが、出てくるかもしれません。これが一

つです。それから、4ページのまさにボランティアのところなんですけれど、このボランティアの確保については先ほどよりお話がありますが、今年の日程は、残念ながら一般の高校は中間考査の直前で、参加しにくい日程でもありました。今更、日程のことを言ってもしかたがありませんので、今後のボランティアの確保について、鳥取県の高校の部活動の中にはJRCという部活動がございます。これは、ただ西部地区にしか団体がなく、この実行委員会からJRCに直接「いかがでしょうか？」という働きかけがあれば、もしかしたらもう少し組織的なボランティアの参加があったかもしれないなど今、私も反省をしております。これが二点目。高校生の参加を増やす意味でもJRCへの働きかけは一つ有効ではないかなと思いますので、校長協会でも考えて参りたいと思います。以上2点です。

○宮本委員長

事務局どうぞ。

○明場（実行委員会事務局長）

山根委員さんのほうからありましたボランティアのご意見。まずは販売を含む催しのほうで、高校生の販売コーナーの話がございました。スペースの関係で2・3校というかたちで、こちらのほうからお願いしたということで、そういう結果だということでございます。この話も元々当初からあった話ではなく、たしか委員会の場でそういった意見が出て始まった話ということもあって、今回は2校でということだったんですけれども、これにつきましては、どこの会場になるかということが一番大きくて、そこでどれだけのスペースが取れるかというようなこともございます。その辺も含めながら、今回既に想定できている話でございますから、その辺も含めて会場について考えていきたいというふうに思います。それから、ボランティアの話でございます。JRCのほうに働きかけがあれば良かったというようなこともコーディネートしてございました。そういった点も含めて、どういったかたちで、いかにボランティアの皆さんの協力を得ていくかというような辺りについて、当然日程を早くということもあろうかと思いますが、そういった辺りもうちょっと教育委員会サイドさんと連携を図りながらしていきたいと思っております。以上です。

○宮本委員長

はい、佐伯委員どうぞ。

○佐伯委員

先程、JRCの話が出ておりましたが、これに便乗するような話になってしまいますけれども、実は、私学のほうにもインターアクトクラブというボランティアクラブが各私立高校などにあります。今回のボランティアについて、私が確か言い出たような気がします。対応していただいて難しい話だったと思いますが、これを少しずつ増やしていただけたらなということを思っています。それともう一つ、参加のほうで、中学生というのが出ていましたが、私はどちらかというと中学校の手話に興味を持っている生徒さんだけではなくて、小学生や中学生、できれば広く子どもたちに、学校を通じて案内を出していただいて、少しでも興味を持ってもらえる、もしくは「行ってみようかな」と

というような子どもたちをぜひこの大会に来ていただくというような活動をしたらどうかと感じていました。つまり、予備群ですね。高校からのボランティアでの参加、もしくは、手話に興味を持つ子どもたちが出てくるんじゃないかなと、今回大会を見させていただいて思いました。

○明場（実行委員会事務局長）

佐伯委員さん、ありがとうございます。私学のボランティアクラブについてはまた参考にさしてもらいたいと思いますし、小学校・中学校の話ですね、これにつきましてやはり、今回ちょっと来場者が少なかったということもございます。そういったかたちで小学校・中学校の皆さんに来ていただけるということであれば、その部分でも動員数を増やすことにもなりますし、やはり幼い頃からそういった手話になじむといった教育上の観点からも非常に有意義なことかなと思います。これにつきましてまた教育委員会さんのほうと連携を取りながら進めていきたいというふうに思っております。以上です。

○宮本委員長

今回の手話パフォーマンス甲子園のPRというのは、小・中学校にはいっていたんですか。

○明場室長

特にやってはないです。

○宮本委員長

じゃあ、そのチラシを配ってというのが有りだと思うので、今おっしゃるのはもっともだと思います。周辺団体に声をかけて、そこから協力を取り付けるというのは、普及の面で公平なやり方だと思いますし、元々手話を普及させるというのは、若年層に対しても、手話というものは言語なんだよというところを教えるというのも、このパフォーマンス甲子園の重要な目的ですから、小中学校に向けて、ボランティアというかたちでもいいし、観客というかたちでもいいし、参加を勧めるというのは考えられると思います。ただ、小中学校課に話を持っていったのではなかなか、「学校は忙しいんだ」という返事がよく返ってくる。結局、教育委員会に言うよりも、学校現場のほうにチラシを配らせていただくというような対応をさしてもらうのが手っ取り早いのかなあと思うんですけど、その辺のアドバイスについては。

○寺谷委員

ポスターをいただきましたら、各市町村立の場合には、市町村立教育委員会をとおしてというルート将我々は持っておりますので、そういうルートに乗せて各学校に紹介すれば、それぞれ各家庭だったり、子ども向けにチラシが届くようにしておりますので、ぜひそういうふうにしていただけたら、我々のほうが対応したいと思います。

○宮本委員長

教育委員会から力強いお言葉をいただいたので、ぜひ小・中学校にもチラシを配るようにならう。そのほか、いかがでしょうか。

○寺谷委員

昨年、この会が開かれましたときに、私2点お話申しあげました。一点目は、表彰についてより幅広く参加者に対して、表彰するのが良いのではないかという話でした。今回それをよく考えていただき、表彰もまんべんなく、頑張っているところから、また参加したところというように行き届いたんじゃないかというように思います。本当にありがとうございました。もう1点、この会のために申しあげましたのは、昨年、私も持ち回りではなく固定化したほうが良いのではないかと、会場について申しあげたと思っておりますが、それをその都度、反省が翌年に生かしやすいというようなことや、それから聖地化するという意味から言うと 移動しないほうがいいんじゃないかということで、今日もご意見を伺っておりました。ただ、そのときに一つは、高校生のボランティアを東・中・西それぞれに高校生がおりますので、まんべんなくそれぞれ3年に1回はボランティアに出ていくような機会を身近なところで作ろうというような意図があったようにお伺いしましたし、今回、小中学生に対していろんな案内をして、ぜひ、こういう機会をとということであれば、会場は東・中・西で回していただいたほうが、参加する側といいますか、何をターゲットにしてこの会が運営されるのかという意味でいうと、持ち回りのほうがいいのかなあというような気もしております。いろいろと大会のこれからの方向性等を考えながら、また上位の組織のほうで長・短を考えながら、決定していただけたらなあというふうに思いますけれども、先程から固定化というご意見もありましたし、私も以前同じような意見を持っていましたけれど、今年そういうふうな、たとえばボランティアの参加であるとか、小・中学生の参加というのをまんべんなく募るという意味では、（持ち回りが）いいのかなあというような気がいたしました。ただまあ、期日については、ぜひなるべくなら、ターゲットが絞れたほうがいいのかなと思いますし、その辺についてはよろしくと思います。

○明場（実行委員会事務局長）

いただきましたご意見ありがとうございます。期日の点はなるべく早くということですが、ボランティアだとか、小・中・高の参加というかたちでは持ちまわるというご意見もいただいたところです。この固定化の話につきましては、上位の実行委員会でご議論いただくこととなります。そこに図る中で、そういったご意見もあったということ踏まえて、提案させていただけたらと思います。

○大杉委員

先程の意見を聞かせていただいて、それに対しても、やはり上層部の決定権というのがありますので、考えたほうが良いと思います。今後の方向性どうするのかというのは、大切な決議をされる前に、上層部がこちらの立場として、企画推進会議委員の私たちとして、また事務局と一緒に、そのポイントを提示して上層部にあげて、上層部にいい材料を提供した上で、そういった準備を行うことが私たちの責任だと思います。ですから、ただ単に意見をあげるのではなくて、たとえば今の意見、持ち回りがいいのか、

固定がいいのか、それぞれメリット・デメリットを綺麗に整理して分かりやすい資料をつくって、きちっと説明できる根拠を持って上層部にあげるといふ努力を、私たちが行ふ必要があると思います。会場を持ち回りなのかというようにことだけではなく、ほかの課題についても財政面についても、今後どのように予算をつくっていくのか、いつまでも日本財団の助成をお願いすることが果してできるのかどうか、きっとそうではないですよ。やっぱり、自主的に予算をつくる努力をしなければならない。そのための議論も必要だと思います。それと、先程申しあげましたけれども、とくに本大会の演劇力、審査基準について、その質、少しずつ高まってきていると思います。この目標があるからこそ、やはり一般の高校、特別支援学校共にチームをつくって、共に工夫して検討してやっていくこのような理念、このねらいがあるならば、それに対して適切な審査基準も明確に工夫していかなければいけないと思います。それが方向性という意味もありますけれども、そういった意味も上層部にお伝えするという意味で、両方のメリット・デメリットといったものを挙げて考えていければなあと思います。

○宮本委員長

ありがとうございます。委員がおっしゃるとおりだと思います。会場の固定化とか、日程の固定化のメリット・デメリットの議論は今まで幾つかあるので、その一方で、会場を持ち回りにすることによるデメリットもあります。メリットもまたあるでしょう。それぞれより多く、より広く普及していく面では、持ち回りのほうがいいということもあるでしょう。今までの議論において、メリット・デメリットというのは、書き物にするより明確になると思いますし、上部団体に出すときはそういった作業が必要になってきますので、それは認識しながらやらせていただきたいと思います。

それから技量が上がってくることによって、審査の基準を整理していただくというご意見もそのとおりであると思います。ただこれ、運用のやり方についても、あると思うんです。20チームそのまま出して一率に審査していくのが、今までどおりでいいのか、それとももっとしぼり込んでいくのがいいのか、そういうやり方もあるんだと思うんです。そこは今後に向けた改善がどの程度できるのかということも加わっていくと思いますので、総合的に判断させていただくということもあると思います。いずれにしろ、上層部に持って上がるには、こちらのほうで書き物にして、こういうことでということで、委員の皆様にはお知らせしたいと思います。そのほか、いかがでしょうか。

○田中委員

演技面についてなんですけども、聞こえない生徒の手話演技に声をつける場合に、声を担当するのはどの範囲にすべきかという意見についてありましたけれども、当日私も（鳥取県聴覚障害者協会）下垣理事長のアテンドで一緒に行動していたときに、一部審査員の協議の様子を拝見させていただく部分もありました。その中で、やはり審査員の中でも、先生が声を担当するのはどうかという意見がありました。同時に、聾学校の中に聞こえる人が先生だけならば、近くの健聴者のいる学校の生徒さんが通訳を行うということもあるんじゃないかという話をされてた部分がありまして、それを聞いていて、ああそれはたしかにそうだなあというふうに感じたので、やはり全面的に生徒がというふうにするのであれば、そういうことをすることによって、支援学校と普通学校との交

流にもなるという部分もあるなというので、その辺を明確にすることも大事なのかなあというふうに思いました。

○大杉委員

今の演技技術についての話の補足でもいいでしょうか。奈良ろう学校については、照明、音響など、キュー出しを行うのは女子生徒が担当していました。更に、奈良ろう学校の場合は、元々演劇部ということもありますので、色々な（演劇の）大会に参加している、そして色々な大会のルールを知っていて、当然に照明の色をつくるなど、本番のキューを出すというのは生徒というルールが他の大会でもあるようで、ある程度、そういった他の大会も考慮して参考にして、この大会のできるところからルールづくり、だいたい生徒が行うようにするという方向性を確認できれば、いろいろな意味でいいと思います。私は、手話はできないんだけど裏方ではこういった協力はできるという生徒もあるかもしれません。そういった形で大会に参加するのもいいと思います。学校の中でチームをつくるのであれば、また先程も田中委員のほうからおっしゃられた聾学校だけではなくて、近くの地域の聞こえる学校と共に工夫してやっていく、そういった学校が増えればいいというふうに思います。やはり大切なのは、理念。共生社会をつくっていくという、共生という理念を目指して、それに合わせた工夫というものが、これからも少しずつちょっと盛り込んでいかなければいけないと思います。

○宮本委員長

はい、大杉委員が今おっしゃったとおり、どこに重きを置くのか、理念は重きを置くのは当然としても、どこまで演劇・演技のQ出しを一つの例としておっしゃったんですけど、そのようなところを生徒のみでやるということと重視するのか、それとも手話普及という面、舞台上の回しの話じゃなくて、手話の普及のほうに重点を置くのかという面で、どちらに審査のポイントを置くのかということにも通じる話だと思います。ですので、審査表をこれからどうするのかとか、そういったものも含めて、これは大杉委員、戸羽委員、廣田委員ともご相談をさせていただきながら詰めていきたいと思います。そのほか、いかがですか。

○戸羽委員

資料の4頁の一番下に書いてあります「パフォーマンスだけではなく、パフォーマンス後のインタビュー、質疑応答ですけれども、それも手話表現の評価、審査基準に入れてほしい」というよう意見を書いてありますけれども、鳥聴協としての意見ですが、参考として、全国高校生手話スピーチコンテストというのがあります。弁論だけではなく、質疑応答を手話です、こうしたものも評価に含まれております。そういったものも審査基準に記されております。手話パフォーマンス甲子園というのは、手話だけをアピールして終りというものではなくて、実際インタビューのとき、ほぼ手話がなく音声言語だけでやっているというところが多かったように思いますけれども、今、手話言語条例が制定されて以降、もう4年経ちますよね、やっぱり手話は普及してきたと思います。学校の中でも、手話は普及されてきたと言えると思います。私たち聾者としても、この手話をパフォーマンスだけではなく、やはり意思疎通のためのコミュニケーションとしての手話言語、それを使うところに意味があると思います。パフォーマンスだけで終る

のではなく、今まで学習してきたものを身につけた、それをコミュニケーションの方法としてアピールをする。それがインタビューの場であって、質疑応答の場である、そういったところのやり取りも評価の基準に含めてほしいなと思っております。

○大杉委員

戸羽委員からの意見がありました。非常にいい方向性だと思います。ただ、質疑応答も審査基準になると、別の課題が出てくるだろうと思います。

○戸羽委員

大杉委員のおっしゃるとおりです。審査員の方が評価をされるわけで、どんなかたちでしたらいいのかというそういった面で課題も残るかと思います。ただ、気持ちとしては、そういった意味もあるとご承知いただきたいと思っております。

○宮本委員長

やはり、文面の問題なのかなあとと思います。審査の項目に直結する事項ですので、これも先程の項目と同じようにご相談させていただきながら、検討したいと思っております。そのほか、いかがですか。

○山根委員

今のお話で、インタビューを審査の対象になるというのは、高校生にとっては出場のハードルが非常に高くなって、かなり難しいんじゃないかという気持ちを持ちながら、今のお話を聞かせていただきました。また、2点ありますが、高校生の参加という観点で、私、今、反省しているんですけども、今回例えば、傘踊りといった場面を含め、あらゆる場面で、ここの部分は高校生が担当できるんじゃないかなと思えるところ、そこに高校生の参加の機会を与える方向で考えてはどうかと思います。例えば、鳥取県の高校では、郷土芸能というのが幾つかの学校にありますので、傘踊りの部分を智頭農林高校の麒麟獅子舞であったらどうかとか、倉吉農業高校の太鼓だったらどうなのか、日野高校の神楽だったらどうなのかという観点で、あの演技を拝見いたしました。これは一例なんですけども、それも含めて様々な点で、これは高校生が活躍できないかという観点で、私たちも今後、会議に参画して提示をして参りたいと思っております。それが一点です。もう一点は、会場についてですが、私も寺谷委員が言われた持ち回りがベターだと思っております。運営側からしたら固定化したほうが良いと思っておりますが、聖地だから一つでいいんじゃないかというのはどうかという気がしまして、鳥取県全体に広めるという趣旨からすれば、私たちのようにやはり西部地区に住んでいるものとしては、やはり鳥取市でなにかあるというものについては、非常に遠く感じてしまいます。3年に1回、各地区で大会が開催されるというのがよろしいのではないかとと思っております。

○宮本委員長

持ち回りの話につきましては、先程来お答えしているとおりでして、メリット・デメリットというのがありますので、整理した上で上部の委員会に挙げたいと考えております。それから傘踊りを例に上げて、高校生でできる部分は高校生にというご提案でありまして、それはとてもありがたいことです。これは先程も申しましたけれども、手話の

普及は若年層への普及というのはこのパフォーマンス甲子園の大きな趣旨の一つでありますので、小中学校どうかたちであれ、ボランティアであれ、観客であれ、パフォーマーであれ、参加していただけるというのは非常にいいことだと思いますので、ただ学校現場のほうにそれを同じ思いで持っていただければ、ありがたいなと思います。それから、審査項目にインタビューを含めるかどうかというのは、これも同じ答えになってしまうんですけど、どこまで求めるのかというところがあります。今回のように理由はあるにしろ、出場校が減ったりという状況の元で、一気にハードルを上げるという方向を取っても、それをやるべきだと考えるべきなのか、それともハードルを下げてもっと幅広に誰でも来てくださいますと。パフォーマンスをしてその後のインタビューは手話でできればなおいいねという程度でするのか、それは考え方にあると思うんです。やはり同じことなんですけど、審査基準をどこに置くのかというのは、今後の運営の重要な部分を占めると思いますので、また相談させていただきながら、やっていこうと思います。それ以外にもご意見ございますか。

○田中委員

公式グッズの部分でいろいろ意見があったんですけども、私も現在、高校生の子どもがいるんですけども、大きな大会にいくと、今回のようなフェイスタオルに出場校の名前があるものや、例えばこんなふうにハンドバッグなんかでも同じようなかたちで、これは野球の甲子園のものなんですけども、こういったものって、出演した子どもたちや親にとってはものすごく記念になるので、やっぱり欲しいんですね。そうすると、今回すごく販売数が少なかったんですけども、来場客、それから出場した子どもたちが買えるぐらいの数、多めにつくっていただければ、これは確か売れたらいくらかは予算のほうに回ったりするんですよ？そういうことであれば、財政的にもメリットもありますし、こういったグッズというのは、かなり売れると思いますので、今後、様々なかたちのものを考えるといいのかなあというふうに感じました。私も子どもが行ったときは、必ず記念に買って帰ったりしますので、すぐいい記念にはなると思います。それから、広報の部分で一つ提案なんですけども、スポーツの全国大会などに行った場合でも、最寄の主要駅から会場までのメインストリートなんかには、旗があつたりとか、歩道の上に横向きの広告が一定間隔について、アーケードなんかにあるんです。ああいうものがもう少しあれば、町行く人の目にも止まりますし、もっとああいう部分で宣伝してもいいのになあというふうに思いました。

○宮本委員長

主に5頁の公式グッズの話と広報の関係でした。公式グッズに関しては廣田委員ご意見ありませんか。

○廣田委員

とくに今はないです。大丈夫です。

○宮本委員長

以上の2点について、事務局コメントをお願いします。

○明場（実行委員会事務局長）

まずグッズに関して、数のことだと思います。参加していただいた高校生の記念というか、それがもし少ないという実態があるのであれば、それは増やしてなるべく皆さんの希望に添えるようなかたちでちょっと考えてみたいと思います。それから広報ですね。周知をメインストリートに大々的という話は、それもおもつともな話でございます。ただいろいろな道路管理上の調整だとかお店側の調整だとかいろいろありますけれど、できる限り前向きな感じで進めていきたいと思っています。

○実行委員会事務局

公式グッズにつきましては、今回新しい取組ということで、事前に出場チームのほうに必要な数を教えてということで、事前注文を受け付けて、それまた発注して希望を取られたチームにはすべての数が行き渡るようにさせていただきました。そういった方法を今後もやっていきたいと思っています。

○宮本委員長

出場チームみんなに配ったんですか。

○実行委員会事務局

事前注文を取りまして、事前に希望されたグッズについては、全て各チームに販売できています。

○宮本委員長

手話に向けてという観点からでも、地元の商店街の了解が得られればできる範囲でやったほうがいいと思います。地域振興の面もありますので、可能な限り検討したいと思います。それでは、よろしいでしょうか。鳥取聾学校の霜村先生はいかがですか。

○霜村委員（代理）

第1回目からずっと見ていて、割と広がりというのを感じております。そして先程出てきた審査基準であるとか、先生が通訳をするというようなことも、実はうちの職員でも議論になっていたことで、その部分のことが今回、議論されたというようなことは非常に大会が深まってきているなと思いました。それから一つ、広報といいますか、当日の広がりだけでなく、たとえば今回の大会も第1回目に参加をしたうちの卒業生が写真展を最後に手伝って帰っていったときに、参加者から声をかけられて、実は、私は名古屋から来たんだけど、第1回目からYouTubeとか見させていただいて、もしかして、あなたは出場していた生徒か？というようなところで、そういうインターネットとか、そういうところから毎年参加をさせてもらっている。手紙のやり取りをしたいということで、そういう広がりというか、そういうことも出てきている。そういう大会かなあというようなことをあらためて感じさせていただいております。そういうところも大事に、事務局の人がされている広がりといいますか、そういうことも大事にさせていただきながら、今後とも進めていただけたらというふうに思っています。ありがとうございました。

○宮本委員長

この会も終盤になって心温まるお話を伺わせていただいて、ありがとうございます。もう、時間の関係もありますので、これだけは言っておきたいというようなところはございませんでしょうか。

○廣田委員

今後のことを考えると2020年、東京オリンピック・パラリンピックもあります。今年トルコでサムスンデフリンピックが開催され、鳥取からも選手が参加しました。パフォーマンス甲子園のPR大使といますか、スポーツの部分で取り入れていただきたいと思います。

○明場（実行委員会事務局長）

手話パフォーマンス甲子園のPR大使ということで入れたらどうかというご意見だったと思います。スポーツ関係では、現在でいいましたらガイナレとっとりというサッカーのチームがごいます。プロということでいえばそれぐらいだと思いますが、そういったことでスポーツのほうでも広がりを持たせるという意味では、それは有益なことだと思いますので。

○廣田委員

もう少しいいでしょうか。ちょっと情報が足りないと思いますので、今年、埼玉県が手話言語条例を制定しました。その関係もあって、西武ライオンズが試合後のヒーローインタビューのときに、手話通訳が入っていました。そういう取組もあります。そういうことも含めてやはりスポーツとの関連で、スポーツは、手話を広める力というものが大きいと思いますので、期待したいと思います。

○明場（実行委員会事務局長）

西部ライオンズの試合後のインタビューでの話というのも参考になろうかと思います。そういったかたちでとにかくスポーツに関わる部分の方にも関心を持っていただけるような取組ということで、持っていけたらと考えています。

○宮本委員長

そのほかの意見よろしいですか。森原委員、国広委員。
よろしいですかねえ。大杉先生、戸羽委員も。

○戸羽委員

意見ではありませんが、この前、大会で急遽審査を行うこととなった古川 鈴子さんから、「ほんとうにお世話になりました」というお言葉をいただいたので、お伝えしておきます。

5 その他

○宮本委員長

あのときは、ほんとにいい対応をしていただき、ほんとうに助かりました。それでは、議論もつきないかもしれませんが、ひとまず今日は前回の反省会の意味が強かったんですけども、ご意見をたまわりまして、宿題もたくさんいただきましたので次回に備えてまたご相談をさしていただきたいと思います。

それでは、「その他」の報告に移ります。資料4、5、その他も含めて、お願いします。

- (1) 今後の日程について（資料4）
- (2) 予算の執行状況について（資料5）
- (3) その他

○明場（実行委員会事務局長）

では、資料4のほうをご覧いただきたいと思います。今後の日程ということでございます。なお、日程につきましてはさきほど皆さんから、ご意見いただいたところでございます。それは今後検討していくということなんですが、今の状況だけちょっと申しあげさせていただきます。2月の中旬に実行委員会の総会ということで予定しております。ここでその他いろいろ出された課題については議論いただくというかたちでいます。企画推進会議のほうは2月下旬に予定しております。それから第5回手話パフォーマンス甲子園につきましては、やはり今の段階では、はっきりしたことは言えず、候補を三つぐらいにしたいと思っております。9月から11月の間で調整をしているというところでございます。開催場所は例年どおりでしたら持ち回りで中部、西部ということになります。いただいたご意見、次回からということとはなかなかむずかしい面もあるかと思っております。ただ別の要素もいろいろあつたりして、一応西部地区でという方向性では考えておりますが、今の段階でということでございます。これらはやはり、実行委員会のほうで最終的には決定していくというところでございます。

続きまして資料5のほうをご覧いただきたいと思います。手話パフォーマンス甲子園実行委員会の収支予算の執行状況というところでございます。収入の部の助成金としまして、日本財団のほうから3,300万いただいております。負担金として県のほうからは1,300万ということでございます。全体で五千万近くの予算額に対して、決算見込みとしては、四千万ちょっとというところでございます。支出額につきましても、運営委託費だとか、開催にかかる経費、広報宣伝費等でございます。四千万規模の予算規模であるというところでございます。

資料4と5については以上でございますが、それ以外のことで、その他というところでございます。ペーパーはないんですけどもちょっと口頭で説明さしていただきたいと思います。先程資料5の中で日本財団さんのほうから助成金をいただいているという話をさしていただきました。日本財団さんからの助成につきましては、第5回大会までは助成をいただけるという話できております。特別協賛（団体）というかたちで日本財団さんのほうからいただいているところなんですけども、本日の議論の中でも5回目以降どうなんだみたいな話もあつたと思っております。6回目以降につきましても引き続き財政的支援をお願いしたいというようなお願いはしているところでございます。また具体的な

やり取りの中で先方からも今後の大会についてのアイディアとかいろいろいただいたりしているということもございます。一応5回までのものが以降どうするということもありますが、このタイミングを捉えて、いただいたアイディア等、新しい視点でも検討していつ、この大会をより発展させていけたらというふうに考えておりますので、その点をまずご理解いただきたいという点がございます。今後日本財団さんだとか、関係団体さんと協議を重ねながら進めるつもりでございます。皆さんのほうにも適宜状況報告なりご相談させていただけたらというふうに考えております。また個別にご相談というようなかたちになろうかと思いますが、そういった場合、またご協力いただけたらというふうに考えております。これがその他の一つ目の案件。

そしてその他の二つ目の案件ですけれども、資料提供というかたちで、手話パフォーマンス甲子園出場校に係る鳥取県中部地震の復興を願う色紙の提供を受けております。これにつきましては中部地震発生しまして1年経過したんですけれども、大会のほうに出場いただきました東京都中央ろう学校の皆さんから、中部地震の復興を願う色紙をいただいたということでございます。詳細はそこにあるとおりでございます。

○宮本委員長

ただ今の説明に対し、ご質問やご意見はございませんでしょうか。よろしいですか。では、今日の会議はここまでで、事務局のほうで閉めてください。

6 閉 会

○司会（障がい福祉課 竹ノ内）

では、皆さんありがとうございました。先程ありましたとおり、次回の会議を来年2月に予定しております。また、委員の皆様方には追って、日程調整のほうをご連絡差し上げますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして平成29年度第3回の手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議を閉会いたします。本日はお忙しいなかご出席いただき、ありがとうございました。